



2019-1号

発行所 独立行政法人 国立病院機構 西別府病院住所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地TEL 0977-24-1221 FAX 0977-26-1163 ホームページアドレス http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp 印 刷 有限会社中央印刷



		目	次
	新年のご挨拶	2	第72回国立病院総合医学会に参加して8
	医局紹介 糖尿病・代謝内科	4	平成最後のハッピークリスマス! 8
	医療安全相互チェックを受けて	5	接遇研修を開催して9
	平成30年度 臨床工学技士実習技能派遣研修 報告	5	当院の行事食紹介10
	健康フェアから西別府病院祭へ	6	地域医療連携室だより 11
	第16回腎臓病教室を開催して	7	職場紹介 12
\			

理

基本方針 1.患者中心の医療

念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

3. 政策医療の推進

4. 地域医療への貢献

5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進

7. 経営基盤の確立

- **患者さまの権利** 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
 - 3.自分で医療の内容を決定する権利 4.プライバシーを保護される権利 5.カルテ開示を受ける権利
 - 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利

2. 患者の権利と尊厳を守る

新年のご挨拶



後藤 一也

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこと とお慶び申し上げます。

昨年は西別府病院に対しましてご高配を賜りまして 厚く御礼申し上げます。

今年の4月で平成は終わりとなります。皆様は平成を振り返りどのような思いを抱かれるでしょうか。平成の主な出来事といえば、東日本大震災(平成23年)や阪神・淡路大震災(平成7年)などの大規模な自然災害に加えて、地下鉄サリン事件(平成7年)や9.11同時多発テロ(平成13年)などの大きなテロ事件も起こりました。「災い」の時代でありました。一方で、消費税導入(平成元年)、バブル崩壊(平成3年)、ベルリンの壁崩壊(平成元年)などの「変化」の時代でもありました。医療に目を向ければ、地域医療構想や地域包括ケアシステムの推進など、超高齢化社会の到来と進行に合わせて、医療機関は大きな変革と対策を求められています。

「災い」については、熊本地震の状況や想定される南海トラフ大地震から「災害は忘れぬ暇なくやってくる」ものです(医療2018年12月号)。2019年の十二支は「亥」ですが、関東大震災や阪神・淡路大震災などは亥年に起こり、なぜか亥年に地震が多いと言われています。病院としての対策を加速させねばなりません。「変化」については、地域が当院に対して何を求めているのかアンテナの精度を高め、職員一丸となって病院機能や医療の質を高め、地域のニーズに応えていきたいと考えています。そのため、干支である「己亥」が意味するとおり、これまで培ってきた病院組織、体制など必要なものは見直し、次の段階に備える力を蓄えるとともに、職員一人一人が、知識、技能などの専門性を高められるよう環境づくりに努めてます。

2019年が皆様にとって、より良い1年となることを心よりお祈りするとともに、これからも当院へのご支援、ご指導を引き続き賜りますことをお願い申し上げ、私の新年のご挨拶とします。

2019年1月



_{副院長} 原 政 英

2019-1号

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに 旧年中のご厚誼に心より感謝申し上げます。

平成30年は天災・人災などが多く発生した「災害の年」とも言われました。振り返ると、平成最後でもあったこの年は、当院にとって新年に向けた院内システムの基盤強化の年であったかもしれません。29年度に更新した電子カルテシステムに本来の機能を十分に発揮させるため、各部署による改善と調整は現在でも行われています。2月には「チーム医療を通した医療の質の向上」をテーマに、日本医療マネジメント学会第18回大分県支部学術集会(会長:後藤一也院長)を開催いたしました。医療安全・在宅医療ならびにリハビリテーション等における多職種連携をテーマとして活発な討論が行われました。

3月には2日間にわたり、公益財団法人日本 医療機能評価機構による病院機能評価を受審し ました。90項目に及ぶ慢性期病院機能につき 職員全員が見直しに取り組んだ結果、多くの項 目でA評価(一部S評価)を獲得し認定を受け ることができました。病院理念にある「最良の 医療」を提供できるシステムを確認できたと考 えています。

さらに10月には、九州グループの指導の下に東佐賀病院と2病院間で医療安全相互チェックに取り組みました。数ヶ月の準備期間中に問題点の抽出と対策実行を繰り返すことで、医療安全体制を再確認することができました。また、2病院間で意見交換することで安全対策の質的向上と標準化を実感できました。

新たな年号の幕開けを間近に控え、私自身、 気持ちを新たにしております。引き続きご支援 のほど何卒宜しくお願い申し上げます。新年が 皆様にとりまして良き年になりますよう願って やみません。

事務部長 河野完治

明けましておめでとうございます。

昨年は、晴れ着レンタル詐欺騒動に始まり、米朝首 脳会談、大阪北部・北海道胆振東部地震、中国四国豪 雨・洪水、県内では耶馬溪の土砂災害等自然災害が広 範囲に亘り発生しました。

また、スポーツ界では、平昌冬季五輪での羽生結弦 選手2連覇を筆頭に日本勢メダルラッシュ、サッカー ワールドカップ決勝トーナメント進出、卓球・バドミ ントン選手達のめざましい活躍。そして大変残念では ありましたが、レスリング・アメフト・体操・角界等 次から次へと発覚するパワーハラスメント・暴力問 題等々。地球温暖化や何か大きな災害(南海トラフ地 震?)を予期させ、またスポーツの世界において、体 罰なしの指導・師弟関係もあるんだなぁと時代遅れな 自分に気づかされた年でもありました。

2019年はネットで調べると干支で己亥(つちのとい)。土と水が重なる年と言うことであまり相性が良くなく、新しいことを起こすにはしっかりとした土台の上で正しく行わなければならないと書かれています。今年は育み培ってきたものを維持しつつ、新しいことを始めるには、慎重に機が熟すのを待ち、最も適正な時期に実行に移すことが肝要なようです。

さて当院におきましては、昨年は職員や地域の皆様のおかげをもちまして、年度当初から患者数も計画値を達成しており、対前年度比も僅少ではありますが上向き傾向にあります。しかしながら、平成31年度は主要診療科の医師が抜ける等非常に現状維持が厳しい状況が見込まれます。

正念場です。大きな逆風が吹き始めました。新年早々ではありますが、早い時期(1~3月中)に患者数確保の具体策を講じなければなりません。そのためには各診療科の先生方を始め全職員が一丸となってそれぞれの役割をしっかりと果たす必要があります。この難関を乗り切った暁には、その経験が未来の西別府病院の礎となり、更なる逆境にも耐え得ることが出来ると信じております。新年度には新しく放課後等デイサービス事業もスタートします。

どうか皆様、平成30年度病院目標にもありますとおり①「病院機能を高め、地域・在宅医療に貢献する。」②「経営基盤を確立する。」を基に、新事業のスタート及び患者確保に引き続きご協力頂きますようお願い申し上げますとともに、今年も何卒よろしくお願い致します。

看護部長 松 山 恭 子

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

昨年は、戌年で分岐点を迎える年、前向きに 地道な努力を重ねることができるかどうかで運 気は大きく変わる年でしたが、皆さまにとって どのような一年だったでしょうか?

病院は29年度の赤字をうけ、病院評価は下がってしまいましたが、30年度は皆さまのご協力のおかげで目標患者数が維持でき、また経費削減で少しずつ改善できています。

病院を取り巻く環境は、年々厳しくなっていますが、その中で看護部が果たす役割を考え、今できることから取り組んでいます。31年度は新しく「放課後等デイサービス」を開設する方針が出されました。当院の病院機能である障害者医療を拡充し、質の向上を図ることは、病院目標の一つである「病院機能を高め、地域・在宅医療に貢献する」ことにつながります。地域包括ケアシステムが推進されている中で、地域から求められる病院となれるよう、努力していきたいと思います。

また看護部では看護教育の充実にむけて、レベル別教育を一部見直し、専門コースとして「慢性呼吸器疾患看護研修」を企画し、看護師長と認定看護師を中心に実施しました。100台程の人工呼吸器を管理する中で、安全管理や呼吸排痰法等、専門的な技術を習得し看護ケアの更なる向上につなげていきたいと思います。

2018年、毎年恒例の世相を表す漢字に選ばれたのは「災」。北海道や大阪北部地震、西日本豪雨や台風、記録的猛暑等、自然災害の影響からでしょうが、来年こそはポジティブな漢字が選ばれる1年であってほしいものです。そして今年は、亥年。「己亥年」で、分化繁栄を分散しないように統制する年とされています。5月には元号が変わり、翌年は東京オリンピック、変化が多くなる年になりそうです。また亥年には「無病息災」の意味もあり、病気にはなりにくい年。患者確保が厳しくなる??当院は慢性疾患患者や障がい者医療を軸としていますのでこれまで以上に満足していただける看護の提供を目指していきましょう。

どうぞ本年もご協力をよろしくお願いいたします。

医局紹介

糖尿病•代謝内科

糖尿病 · 代謝内科部長 吉 道 剛

糖尿病・代謝内科の吉道と申します。西別府病院のすぐそばに南立石公園というウォーキングするのにとても気持ちよさそうな公園があります。先日ふらっと立ち寄ったところ、学生時代のはるか30年程前に何度か参加した鶴見岳一気登山のコースを示す立て札が立っていました。ワンゲルの部室にあったでっかい縦走用のリュックをかついでいたので余程目立ったのか、境川の河畔でNHKのアナウンサーからインタビューをうけました。帰りはロープウェイの駅のそばで打ち上げがわりの花見をしました。意外なところにご縁があるものです。

糖尿病は厚生労働省から地域医療の基本方針となる 医療計画に盛り込むべき疾病として指定されている5 疾病(がん・脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患・糖尿 病・精神疾患)の一つです。また糖尿病性腎症は新規 透析導入症例の原疾患の第一位です。SGLT 2 阻害剤、 GLP 1 受容体作動薬の登場により、糖尿病の治療薬 はまさに百花繚乱の様相を呈しています。医師として は患者さん個別のきめ細かい対応がより求められるよ うになってきました。

2013年に熊本宣言が提唱されてから5年が経過しました。高齢化社会への対応として、認知症の程度や治療薬に応じた治療目標が見直されました。2016年に高齢者糖尿病の血糖コントロール目標として公表されています。新規デバイスとしてのCGM、FGMの登場は糖尿病療養生活には非常に有用です。しかしながら新規ゆえの課題や注意点も数多く存在します。

肥満症の治療にあたっては食事療法、運動療法のみならず、行動療法的アプローチが有効です。詳細は肥満症診療ガイドライン2016に記載されています。

肥満症患者には患者さん特有の食行動の「ずれ」と「くせ」が存在します。これらは抽出および修正すべき問題点であり、再構築が必要な認知異常に相当します。「ずれ」とは「水を飲んでも肥る」という認識のずれ、「くせ」とは「目の前の食べ物に、つい手が出る」「食事の買い物に出かけると必要以上に買い込んでしまう」「イライラするとつい食べてしまう」といった食行動の悪いくせです。いずれも患者さんが意識していないために日常生活のなかで繰り返されます。その結果、食事療法や運動療法の遂行や効果に悪影響を与え、肥満症治療の大きな阻害要因となります。

食行動質問表は患者さんの問題点を総合的に把握できますが、日々の行動修正には向いていません。研究室の諸先輩が試みた技法の中で最も有用だったのがグラフ化体重日記です。1日4ポイントで正確に体重を測定し、患者さん自身にグラフ上に記録していただき、視覚化します。その特徴は患者さん自身が気づかない食行動や日常生活のリズムの乱れが、そのまま視覚化される点にあります。お互いに乱れた波形の意味を考えることで行動解析がなされ、行動が修正されると、その結果は律動的に繰り返される山型波形として表現されます。比較的簡便なこの技法は、治療動機の低い肥満症患者でも長期間継続できます。

最後に誠に微力ではございますが、地域医療に少し でも貢献できればと考えております。よろしくお願い 申し上げます。

担当医師

吉道 剛 (糖尿病・代謝内科部長) 大分医科大学 (現大分大学) 大学院卒 医学博士

- 日本糖尿病学会専門医
- 日本内科学会認定医
- 日本糖尿病学会研修指導医
- 日本肥満学会評議員
- 大分大学医学部臨床教授

医療安全相互チェックを受けて

副院長

原 政英

医療安全相互チェックとは病院間で医療安全に関して現状を評価し、対策に関する意見交換を行う取り組みで、医療安全対策の標準化を目的としています。今年度、当院は九州グループの指導の下、東佐賀病院と2施設間で相互チェックに参加しました。10月12日(金)13:00~17:00には当院が受審し、翌週19日(金)には当院医療安全スタッフ8名が評価者として東佐賀病院を訪問しました。チェック項目は半年前に配付され、リスクマネージャーを中心に関連部署と話し合いを行い、院内全体の自己評価を行いました。その結果に基づき受審までの期間、問題点をリスクマネジメント部会メンバーで共有し、部署毎に必要な対策を検討しました。

当日は、項目に沿って現場スタッフからの聞き取りと意見交換を主体とした評価が行われました。今回参加した相互チェックの特徴は、病院機能が類似した施設間で行われたということでした。このため、両病院に共通の課題が明らかになっただけでなく、他院の秀逸な取り組みを知る良い機会となりました。機能の類似した2病院ではあるものの、人工呼吸器稼働台数、電子カルテ導入の有無、診療科などに違いがあり、安全管理面で改めて気づかされる点も数多くありました。現在、相互チェック後の改善策として、リスクマネジメント部会を中心にマニュアルの追加・修正、処置手順書の作成等を行っています。今後もこうした複数の病院間での活動を通して、自院の医療安全の質的向上に積極的に取り組んでいきたいと思います。

平成 30 年度 臨床工学技士実習技能派遣研修 報告

主任臨床工学技士 阿部 聖司





12月6、7日(木、金)の2日間にわたり当院にて臨床工学技士の実習技能派遣研修が行われました。九州グループの臨床工学技士として初の開催で当院の特徴でもある人工呼吸療法に関する研修を2日間でみっちり行いました。当院からも講師として各先生方にご協力いただきました。受講生のアンケートから満足度も高く充実した講義が行えたと思っています。この場を借りて御礼申し上げます。この実習技能派遣研修は来年以降も各地で開催される予定となっています。当院で開催される際はまたよろしくお願い申し上げます。





健康フェアから 西別府病院祭へ

管理課長 北 江 勇

一般の方と在宅の障がい者の方に来ていただいて当院を知ってもらうと共にステージイベントの病棟訪問も行い、ステージイベントに来れる入院患者さんには来ていただき楽しんでもらうことを目的に西別府病院祭を10月27日(土)10時~14時にて外来ホールや療育ホール等で開催しました。

昨年までは、健康チェックを中心にステージイベントや出店コーナーを行っていたため、健康フェアとの名称にて開催していましたが、今年度は、健康チェックはお薬相談と栄養相談のみとして、外部から来られた方にステージイベントのゴスペル・グループGRACEのコーラス、自立支援センターおおいたの講演会、大分トリニータとのふれあい会、別府大学吹奏楽部演奏会、AED講習と出店コーナーのバザー等を楽しんでいただき、東病棟の入院患者さんにはゴスペル・グループGRACEのコーラス、大分トリニー

タリさニトニへきんし西めとこのニんタヤタ問病もた府開これをかランて等う、院すたの方とのでこ名祭るの病にいでこ名祭るにいでこ名祭るとにいでこ名祭るとにいてこれの開催しました。





当日が雨となっても開催できるように室内での各催しを計画しましたが、当日は好天に恵まれ200人を超える来場者(予測では300人超)を迎えることができました。受付の200名分を用意した無料花苗引換券配布場所では長い列が出来、出店コーナーではバザーや

農作物の販売が人気で多くの方が買い求められていま した。ステージイベントは、出店コーナーとの場所 が離れすぎていたこともあり、来場者が少ない状況

となりましたが 来られた方には 楽しんでいただ けたと思います。 東病棟へのゴス ペル・グループ GRACEの コー ラスや大分トリ ニータの元ミス タートリニータ 高松大樹さんと ニータンの病棟 訪問は、入院患 者さんに大変喜 んでいただけま した。





© OITA F.C

毎年来られている近隣の方からは、健康チェックの 骨密度や血管年齢等を今年はしないことに非常に残念 な声をいただきました。健康チェックが今年もあるも のと思い来られた方が多くおられたのが印象として残 りました。

実行委員での反省委員会では、来年度は健康チェックの項目を考え行っていくことやステージイベントへの導線を考える必要があること、イベントの病棟訪問は別の機会で行うこととして外部向けに開催した方がいいなどの意見が出されました。今回の反省点を踏まえて今後の開催を考えていく必要を感じました。

最後に、西別府病院祭の開催にご協力いただいた皆様に感謝申し上げると共に事故もなく無事に開催できましたことに深く御礼申し上げます。

第16回腎臓病教室を開催して

小児科部長 平松美佐子

11月30日(金)当院カンファレンス室にて、平成最後となる第16回腎臓病教室を開催しました。今回の教室は、小児科腎臓専門医として私の先輩である古瀬先生が西別府病院に初めて小児腎臓病外来を開設したあと赴任した私にとって、ひとつの節目にしたいと考えていました。

それで今回は、当院の腎臓病患者さんもお世話になっている元名古屋第二赤十字病院移植外科の打田和治先生をお招きして、「腎移植の最前線」というテーマで講演をしていただきました。

今年度の教室は、腎臓病の患者さん・ご家族・養護学校の先生など30名の方にご参加いただきました。

昨年度に引き続き、腎臓専門医の平松と植村ができるだけ分かりやすく腎臓病の症状、学校検尿のシステム、腎不全、CKD(慢性腎臓病)、透析の話をしました。また薬剤師の先生からは、CKDの患者さんの薬の飲み方や使用量について分かりやすく説明していただきました。

リハビリの先生からは、CKDの人も軽い運動による 筋力維持が必要で、腎臓リハビリテーションという考え 方に基づき安静から規則正しい運動へとシフトする必要 があり、学校の体育の授業にも適度に参加することが大 事であるとのお話がありました。栄養管理室からは、昨 年度同様新しい切り口から、たんぱく質を増やさずにエ ネルギーを増やす工夫や、忙しい人でも簡単にできる補 助食品を活用した食事療法を紹介していただき好評でし た。

最後に打田先生より、本邦における小児・成人の腎移植の最前線について講演していただきました。「腎移植適応の拡大と高齢者レシピエントの増加」「ABO血液型不適応腎移植の増加」「先行的腎移植の拡大」「2010年の脳死改正法に伴う脳死下臓器提供の増加」といった話題について分かりやすくお話しいただき、来場者の方々も興味深そうにお話を聞かれていました。







第72回国立病院総合医学会に参加して

東5病棟 川 野 望 美

11月9日(金)~10日(土)に神戸で開催された第72回国立病院総合医学会で「神経難病病棟における患者・家族への意思決定支援のプロセス」というテーマでポスターセッションにて発表し、「看護の質(神経難病)」の部門でベストポスター賞をいただくことができました。内容は、神経難病病棟では意思決定後に患者様や家族が選択を後悔することがあるため、患者様と家族

が後悔しない意思決定となるように、看護師はどのように支援していったらいいのか常に悩みを抱えている。患者様と家族が後悔しない意思決定となるには、患者様と家族がイメージしやすいような具体的な説明や他職種との情報共有、病気の進行に伴う不安や死への恐怖に対する精神的支えや患者様と家族の意志を一致させるための関わりが必要で、患者様が選択後の生活で希望や目標を見出し実現できるように家族と連携していく必要がある、というものでした。発表を多くの方に聞いていただき、「患者様と家族がイメー

ジしやすい説明とは具体的にどのようなものか」といった質問を受けました。発表後もポスターの掲示ブースで足をとめポスターを撮影している方がいました。今回の学会を通して、意思決定支援に関する医療職者の関心が高く、神経難病看護において意思決定支援が患者様と家族のQOLの維持・向上を目指す上でいかに重要なことであるかがわかりました。





今年も東1・2・3・4・5病棟(療養介護サービス利用者対象)の各病棟でクリスマス会が開催されました。今回のテーマは「平成最後のハッピークリスマス!」でした。

東3病棟は12月12日(水)、東4病棟は13日(木)に病棟プレイルームで行われました。寸劇では平成最後の年を賑わせた、白塗りメイクのくっきー、平成の歌姫安室奈美恵やひょっこりはんが登場しました。ゲームでは、クリスマスツリーにキラキラのオーナメントやラベンダーの香り袋の飾り付けを行いました。医師が扮するサンタさんからのプレゼントでは飾り付けたツリーや天井のイルミネーション点灯があり「わぁ〜」と歓声があがり、皆さんイルミネーションに釘

付けでした。その後、今年話題になった「U.S.A.」の歌に合わせてダンスをして会場全体が盛り上がりました。そして、お楽しみのプレゼント!!サンタさんから1人1つプレゼントをもらって楽しい会は終了となりました。



接遇研修を開催して

患者サービス委員会 平 野 美 幸

10月31日(水)、国際ライフ&メディカルコミュニケーション協会代表の藤咲里花先生を講師にお招きし、全職員を対象とした接遇研修を開催しました。研修テーマは「医療接遇・マナーから考える患者の安心・満足につながるコミュニケーション」で、68名の多職種職員の参加がありました。

先生は講演の導入として聴講者に「私はブローチを付けているか?」「付けているとするならどんなブローチか?」という質問が投げかけられました。私は最前列にいましたが、「ブローチは付けていたような気がするけど…。どんな物かはさっぱり?」という程度の印象でした。先生が伝えたかったことは、接遇・マナーのポイント「相手に対する心遣い」、それは相手の立場に立って相手の考えや気持ちに想いを寄せることであり、相手に興味・関心を寄せることが大切ということでした。私たち看護師が看護を提供する上で、相手が何を望み、何を求めているかを知ることはとても重要なことです。それを見出すためには想いを寄せる、興味・関心を寄せることから始まります。コミュニケーションもここから始まるのだと改めて感じました。

講演の中で私が最も印象に残った内容が二つありま

す。一つは私たちが勘違いしてはいけないことは「親しみやすさ」と「馴れ馴れしさ」は違うということです。親しみやすく接しているつもりの言葉·態度が、相手には「馴れ馴れしい」という不快感を与えることにもなります。患者との関わりは勿論のことですが職員間でも、自分自身がどうかではなく、常に相手のことを考えることが重要です。

もう一つは、患者は自分に接するときだけでなく、他の患者に接する対応で印象を抱き、一瞬にして信頼できる病院かどうかを判断し評価しているということです。私は看護師長として外来を管理していますが、外来看護師は患者やその家族、来院された方が初めて出会う看護師です。外来看護師の印象が病院の評価につながると言っても過言ではありません。外来看護師が担う役割の大きさを痛感しました。

今回の講演の内容は聴講者一人一人が日頃の自分と向き合える内容であったと感じます。目の前の患者との関わりを大切に、またその関わりを周囲の人が見て評価しているということを肝に銘じ、これからも職員一人一人が患者に寄り添い、信頼される病院を目指していきたいです。

次に、東 2 病棟は 18 日(火)、東 1 病棟は 19 日(水)に病棟全体を使って行われました。オープニングの合唱隊によるクリスマスソング、キャンドルサービスでは各部屋や廊下を仮装したスタッフがまわりました。様々な仮装に笑い声が聞こえていました。イルミネーション点灯式では、「 $3\cdot 2\cdot 1$ 」の掛声で点灯すると「すごい!」「きれい〜」という歓声と皆さんのキラキラした表情が印象的でした。待ちに待ったプレゼント配りでは、希望されたプレゼントをサンタに扮した医師や病棟師長から受け取られていました。風船おじさんによるバルーンアートのプレゼントも大変喜ばれていました。

そして、東5病棟は21日(金)に各病室で行われました。イルミネーション観賞や職員によるクリスマスソングの歌やトーンチャイ

ムの演奏、サンタの登場に笑顔が 見られました。職員の様々な仮装 に賑やかなクリスマス会となりま した。

最後に、多くのボランティアさんのご協力、スタッフの皆様のご 尽力に心より感謝申し上げます。





当院の行事食紹介

栄養管理室長 藤原 彰

当院では、毎月の誕生日食に加え、年間25回の行事食を行っております。

その中で、今回は「おせち料理(元日)」、「花見弁当」、「山海の幸膳(みどりの日)」、「精進料理(お盆)」、「秋の味覚膳(秋分の日)」を掲載いたします。行事食の際は、調理師と話し合い、色合いや味のバランスにおいて意見交換しながら、献立を立てております。

患者さんにとって、食事が大きな楽しみになるよう栄養管理室一同、献立・調理を研究して参ります。



おせち料理(元日)



精進料理(お盆)



秋の味覚膳(秋分の日)



花見弁当



山海の幸膳(みどりの日)

地域医療連携室だより

地域医療連携係長 安森洋美

去る11月21日(水)、近隣の医療機関のスタッフを対象として西別府病院第10回病診連携セミナーを開催いたしました。今回のセミナーのテーマは「チームによる褥瘡治療の実際」としまして、当院外科部長の唐原医師が講義を行いました。

参加者は当院の職員も含めて30名でしたが近隣の 病院や訪問看護ステーションの職員の方々に多くご参 加いただきました。

講義の内容は褥瘡の発生機序や予防・治療、体圧分散寝具やクッション、栄養との関係、治療の方法などで特に褥瘡は医師、看護師、栄養士、薬剤師、リハビリなどの多職種で予防・治療するチーム医療が重要であること、また原因を早期発見し、適切な治療を行えば2ヶ月で8割程度治癒するとの話がありました。

参加者の方々はメモをとりながら熱心に講義を聞かれていました。研修後、事例を唐原医師に相談されている方もいました。研修生から「西別府病院での褥瘡治療の実際を理解させていただきました。」「治療、栄養との関係性がとても勉強になりました。」「症例と治療とからめて画像を含めて教えていただきとても勉強になりました。」などの意見がありました。

今年度は H31 年 2 月にも本セミナーを行う予定としております。時期が近づきましたら御案内させていただきます。セミナーを通じて地域医療に貢献して参りたいと考えておりますので、近隣の医療機関のスタッフの皆様におかれましては、ご参加のほど心からお待ちしております。









次回セミナー のご案内 日時

2月19日(火) 18:30~19:30



「誤嚥性肺炎について」

講師

呼吸器科部長 河野宏

瑞場紹介

西別府病院で働くスタッフを 毎回紹介しています。 この科はどんな診察をするの? この部署はどんな仕事なの?など 意外と知らない病院のこと 覗いてみませんか

療育指導室



療育指導室は、全国で療養介護サービス事業実施病棟(重症心身障害、神経・筋疾患)と小児病棟等を設置している国立病院機構にしかない部署で、当院の療育指導室スタッフは、今井療育指導科長(小児科医長)を筆頭に、児童指導員5名、保育士10名(非常勤3名含む)、業務技術員1名(非常勤)の部署になります。

担当する部署は、東1,2病棟(神経・筋疾患、重症心身障害)・東3,4病棟(重症心身障害)・東5病棟(神経・筋疾患/療養介護8名)・日中一時支援「ひだまり」で、福祉的分野 (QOLの向上、レクリエーション、行事、障害者総合支援法、児童福祉法への対応等)、関係各機関との連絡調整(行政、児童相談所、相談支援事業所、支援学校、病院、公法人立障害児施設等)、ボランティアの受け入れ等を担当し、幅広い分野に関わらせて頂いています。

今後も障害者総合支援法に伴う関係機関、病院関係部署とのスムーズな連携をはかり、適切な福祉サービスの提供及び入所者数の維持、在宅支援の強化等で病院運営に寄与したいと考えています。また、個別支援計画(入所者支援計画)のもと利用者一人ひとりの個別性へ配慮した日中活動の場を提供し、利用者の要望に応えられるようチームアプローチによる支援の展開、障害者虐待防止を考慮し、安心して納得した生活を送って頂くことを目標に療育指導室スタッフ一丸となって頑張っていきたいと考えています。

(療育指導室長 大木 一弘)



東4病棟は、小児科 重度心身障害児(者)病棟です。 患者様は1歳から65歳までと年齢幅が広く、大学病院 などからNICUを経て入院となる幼児に近い患者様と、 以前から入所されておりすでに老年期を迎えた患者様 が入院しています。高齢化により、医療処置が増加し、 他部門との連携が必要になっています。また、幼児から学童、中学生と成長期を病院で過ごすため、支援学 校や療育指導室と共に、人としての成長発達段階を考 えながら、看護を実践しています。病棟は看護師36名、 業務技術員3名で運営しています。各自受持ち患者の 個別性を取り入れ、集団で生活する中でも個人を尊重 できることを目標にしています。

また、レクレーションや面会日にはコミュニケーションをとり、ご家族の希望を取り入れています。自分では、言葉を発せない患者様の変化に気付き、快適な療養生活を送ることができる様に寄り添っていきたいと思っています。

(東4病棟看護師長 板井 弓枝)